

浜松未来総合専門学校（令和7年度実績）

学校自己評価・学校関係者評価 評価報告書

1. 教育理念・教育目標

〈教育理念〉

建学の精神「技術者の育成をもって地域社会に貢献する」

〈教育目標〉

本校は、教育基本法に則り、学校教育法に従い、工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的スキル並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①「選ばれる学校」として評価される教育活動を展開し、学生満足度の向上、競合校への優位性の確保、高校・企業からの信頼を得る。
- ②安定した学校運営基盤を維持し、地域と時代に求められる質の高い教育活動を実現するため、日本人学科 240 名、国際系学科 80 名の入学生を確保する。
- ③地域の産業界・企業・外部諸機関の教育活動への参加、連携、地域貢献活動を通し、地域における本校のプレゼンス向上を図る。
- ④スピード感、教職員の自主性を重んじる学校運営と、グループ内連携の強化推進を図り、教職員エンゲージメント向上と業務効率化の両立を目指す。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価方法： 4（適切） → 3（ほぼ適切） → 2（やや不適切） → 1（不適切）

（1）教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
学校自己評価 平均		4
<u>成果と課題</u>		
①教育理念並びに教育目標は、学校ホームページや学生便覧に掲載している。		

<p>②各学科での高い専門知識・技術の習得と、学科横断型プログラムによる社会人として基礎的・汎用的能力（ジェネリックスキル）の育成が本校の特色である。学科横断型プログラムでは、学科を越えたクラスを編成してグループワークを中心とした授業を実施している。</p> <p>③学校の将来構想については、法人内専門学校5校の長期・中期計画に基づき、策定・実行されている。</p> <p>④学校及び学科の育成する人材像を、学校説明会やオープンキャンパス等で説明している。また、学生に対しては、みらい考房（修学基礎）にて、保護者に対しては後援会総会にて、学科担当が説明している。</p> <p>⑤教育課程編成委員会やシナリオサポート企業と連携して、業界のニーズを把握しカリキュラム改定を実施している。</p>
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校生活や学校の取り組みについては、ホームページ上での情報発信の機会を増やし、学生をはじめ多くの方への周知を図る。また、在校生に対しても重ねて説明をする機会を設ける。 ・教育課程編成委員およびシナリオサポート企業の段階的な拡充を図り、最新の業界ニーズの把握に努めている。 ・学校教育法の改正に伴う単位制移行に合わせ、カリキュラム改編を進める。
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学後に転科する学生はいるのか？ ・退学率からミスマッチが起こっているのではと考えたが、AO 面談を行って細やかに説明するなどされていたので、学校としては取れる策はしっかりと行えていると感じた。 ・全体的に素晴らしい取り組みをされている。 ・浜松の地に根差し、時代や社会のニーズに合わせて、柔軟に経営されていて素晴らしいと思う。 ・建学の精神に基づき、地域社会への貢献と有能な職業人の育成という目標が明確である。 ・時代に合わせたカリキュラムが作成されている。 ・専修学校制度の見直しへの対応ということで、大変かと思いますが引き続き、教育理念の実現にむけてご活動ください。 ・学生が職員室に入る時、なんのために入室するかを宣言することができる。ただし、どんな時でも出会った人と挨拶ができるようになるともっと良い。 ・介護分野の講師派遣でしたら応援できることがあると思いますので、お気軽にお声掛けください。

学校関係者評価

4.0

(2) 教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	4
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4

2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	4
学校自己評価 平均		3.9

成果と課題

- ①全科目のシラバスは、ホームページ上に公開している。また、各科目における授業開始の際には、授業担当者が学生に対してシラバスに沿って授業計画や到達目標、成績評価基準等を説明している。
- ②教育到達レベルや学習時間は、学生便覧やシラバスに記載して学生に説明している。
- ③産業界・企業と連携して策定した「人材育成目標」に基づいた「人材育成シナリオ」を構築し、複雑化・多様化する分野に合わせ細分化した「小シナリオ」の中に目標達成に必要な科目を配置している。
- ④教育課程編成委員会にて頂いた提言は、速やかに授業へ反映させている。
- ⑤職業実践専門課程のもと、企業連携による実践的な職業教育が体系的に位置づけられている。
- ⑥授業アンケートは毎年3回実施し、集計後学科担当者からフィードバックしている。
 - 1回目 4月～ 7月全授業終了した科目→ 8月集計→9月返却
 - 2回目 8月～11月全授業終了した科目→12月集計→1月返却
 - 3回目 12月～ 2月全授業終了した科目→ 3月集計→4月返却
- ⑦成績評価、単位認定は教務規程に沿ってシラバスに記載、学生へ説明している。
- ⑧資格取得については、各科で重点資格を位置づけ、受験、合格に向けた指導体制のもと授業運営をしている。
- ⑨当該分野での実務経験を積んだ専任教員の採用に努めている。また、現役で実務に関わっている非常勤の講師の確保も継続的に行っている。
- ⑩全学科教員が、技術および指導力の向上を目的とした各種研修に参加し、教育の質向上を図っている。
- ⑪カリキュラム見直しは、職業実践専門課程学科（職業実践専門課程申請予定学科を含む）では、教育課程編成委員会を開催（年2回）し、外部委員の協力のもとカリキュラムの作成・見直しを図っている。
- ⑫目標に到達しない学生に対するフォローは、個別面談や放課後補習等により個々に寄り添った対応をしている。

今後の改善方策

- ・ 授業評価アンケートにおいて、講義の進行スピードやスライドの切り替えが速く、内容の整理や筆記が間に合わないといった意見が散見された。当該教員へのフィードバックを行い、経過を確認している。
- ・ 専任教員の定着率向上が喫緊の課題となっており、教員組織の充足が遅れている。法人本部と連携し、専任および非常勤講師の計画的な採用を強化する。また、離職防止に向けたオンボーディング(新任教員研修)体制を整備し、早期の適応と定着を支援していく。

学校関係者 評価コメント

- ・ 教育を行う上で様々な対策をとられている。
- ・ 人材不足は運営していく上で重要な課題である。
- ・ 講師の確保が難しいと思うがうまく進めて欲しい。
- ・ 専任教員の定着率を知りたい。
- ・ 教員確保は高校においても喫緊の課題。その中でもオンボーディングなどの工夫をしている点が評価できる。

- ・教員の拡充は、関連する企業からの受け入れのご検討はいかがでしょうか。
- ・メイク・ブライダル科にて、何か協力できることがあればご相談できればと思います。(非常勤講師の紹介など)
- ・選任教員の定着にご苦労されているとのこと、「知識を持っていることと教えられることは別」とのお話はその通りと感じます。介護分野の講師派遣でしたら応援できることがあると思いますので、お気軽にお声掛けください。また、教員のレベルアップに施設見学・実習などが有効でしたら、ぜひご活用ください。
- ・授業アンケートを講師にフィードバックすることによって授業内容を充実することが万全にできていない。
- ・今後は、学生が自身のペースで復習できるオンデマンド教材の活用など学習支援の拡充を検討されてはいかがでしょうか。

学校関係者評価

3.8

(3) 教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	3
3-2	資格取得率の向上が図られているか	4
3-3	退学率の低減が図られているか	3
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
学校自己評価 平均		3.5

成果と課題

- ①就職内定率 97.4% (目標 98%)、専門職内定率 86.0% (目標 85%) 日本人学科は 100%を達成している。国際観光・ビジネス科では、観光業の動向を踏まえ新規企業約 50 社への求人開拓を実施したが、未内定のまま 7 名が卒業を迎えた。この 7 名に対しては卒業後も継続して就職支援を行っている。
- ②資格取得では、年度初めに目標合格率(数)を掲げ対策授業を講じている。情報系の国家試験で対策方法の見直しを行い、合格率を 40%改善し、全国平均を大きく上回る実績を残すことができた。
- ③休退学率は 5.8%(昨年 6.0%) 内訳は精神的 34%(昨年 42%)、進路変更 22%、経済的 17%(昨年 12%)、学業不振 15%、病気 5%、家庭事情 5%、その他 2%。年度当初からの休学と経済的理由の除籍が計 13 名おり、それを除くと 4.5%。昨年同様精神的理由による休退学が多い一方で、経済的理由も増えてきている。
- ④同窓会は継続的に運営されている。卒業生の社会的な活躍については同窓会より情報提供を受けている。

在校生の教育成果発表の場として「浜松未来ウィーク」(学習成果発表)を開催した。

今後の改善方策

- ・観光分野の求人開拓のための検討チームを作り、求人開拓を行う。
- ・毎年度、重点資格として位置づけられているものについて指標を定め、目標必達として P D C A を回している。
- ・精神的理由による休退学者について、スクールカウンセラーとの連携を強化し、兆候のある学生への早期対応をさらに心がけて学生のケアに努める。

学校関係者 評価コメント

- ・毎年高い就職率を保たれている。
- ・卒業後の継続支援はどのような支援をされているのか？
- ・多様性が高まっており、個々の事情が異なっているため、就職率や退学率ともに数値だけではかることが難しいと考える。
- ・退学理由もいろいろあり、難しいところであるが少しでも退学率を下げて行って欲しい。
- ・サポート体制は手厚いと感じた。
- ・今年度の健診では外国人の受診が増えたと感じた。

- ・精神的、経済的理由による休退学が一定数存在している。
- ・スクールカウンセラーとの連携強化に加え、出席データ成績データの推移から、中退リスクを早期に検知するデータ分析の導入など、データを活用した見守り体制の構築も有効と考える。
- ・学生の精神的問題に対して学校側としてカウンセラー等を充実させ、最善をつくる必要がある。
- ・精神的サポートを必要とする学生さんが増えているとのご説明でしたが、その通りと感じていますし、良く対応いただけていると感じています。今後も在学中はもちろんのこと、卒業（就職）後も、連携していけますようお願いいたします。
- ・課題等でサポートがあると安心かと思えます。
- ・人材のローテーションからか、急な授業変更が多くなってきたと思う。
- ・就職率、資格取得率、退学率のいずれも良い成果を収めている。
- ・鈴木先生による問題への対応が功を奏しているとのこと、引き続き期待しております。
- ・国際介護福祉科におかれては、介護福祉士の合格率がとても高く、学生一人ひとりにあった学習支援を行っていたいた賜物と感じています。感謝いたします。
- ・経済的な問題がある学生について募金等を設けて支援する制度を充実させる必要がある。

学校関係者評価

3.9

(4) 学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
4-5	保護者と適切に連携しているか	3
4-6	卒業生への支援体制はあるか	4
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	3
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
4-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
学校自己評価 平均		3.7

成果と課題

- ①学科担当と就職担当が協力のもと、学生の就職相談に常時対応している。また、合同企業ガイダンスで63社、校内個別企業説明会では93社を招聘し、学生と企業とのマッチングを図った。
- ②学科担当によるホームルームや個別面談を実施している。スクールカウンセラーによるカウンセリングをプライバシーに配慮して受けられる体制を整えている。オンラインによるカウンセリングも随時可能である。
- ③「高等教育の修学支援制度」の認定を受けている。またこれまで通り、学生支援機構の奨学金制度や提携するクレジット会社の教育ローンを低金利で利用できる。
- ④年度初めに全学生対象に健康診断を実施している。また、学校医を契約しており、必要に応じて日頃からアドバイスが受けられる体制を整えている。
- ⑤保護者から成る後援会が組織されており、学校に事務局を設置している。学生指導として出欠席指導、成績不良者に対する保護者連絡等は常に実施しており、学生の変化を状況に応じて情報を共有する体制をとっている。

- ⑥卒業生から成る同窓会が組織されており、学校に事務局を設置している。定期的に役員会・同窓会を開催して卒業生の動向把握に努めている。また、卒業生への再就職支援体制を継続的に運営している。
- ⑦高等学校との連携によりガイダンスをはじめ授業も増えてきており、キャリア教育・職業教育を各種職業分野において実施している。
- ⑧企業訪問や各種交流会などへの積極的な参加を通じ、新規求人の開拓を行なっている。しかしながら外国人留学生の増加に対してのさらなる求人開拓は継続の課題である。
- ⑨課外活動として、学校全体規模でバス遠足や、学科ごとに教育上必要な施設見学や展示会見学等を実施する際は、保護者による学校後援会組織からの支援を受ける体制を整えている。
- ⑩本科生における教育環境は計画的に整備している。法人全体においてもリカレント・リスキリングに対する取り組みが静岡駅前キャンパスで始まった。

今後の改善方策

- ・就職活動の早期化や多様化する学生への対応を適切に行い、個々に向き合った指導を実践する。
- ・カウンセリングの利用推進により、心理的側面からもきめ細やかな支援体制を構築する。
- ・高等学校の連携校数の更なる充実化と中学校段階からの職業意識形成に向けたアプローチを新たに展開する。
- ・リカレント、リスキリング教育は、中長期的計画に盛り込まれ検討している。
- ・各学校宛求人を専門学校グループ全体で共有することにより、求人の有益化と学生とのマッチング向上を図る。

学校関係者 評価コメント

- ・昨今の世情から支援を行うことが大変重要だと思う。
- ・就職に強い学校というイメージを浸透するには、資格取得率の向上→求人企業の増加→応募者数の増加という好循環を作れるとよい。
- ・保護者との連絡ツールを新1年生から試行しているとのこと、大変良い取り組み。
- ・連絡のすれ違いが今まで多かったので、今年度のトライが上手くいけば是非とも在校生に進めて欲しいと思う。
- ・通知が保護者に届かないケースがあるとのこと。システムでの解決を進められているとのこと、期待しております。
- ・学生の学びの場を継続していくために、新たなシステムを導入することは重要である。
- ・浜松未来総合専門学校ならではの DX 化を是非すすめて欲しい。
- ・「外国人留学生の求人開拓」が課題とのことでしたので、ぜひ介護分野への就職を斡旋していただけたらと思います。県による「介護福祉士修学資金貸付制度」もありますので、本人負担が実質ゼロで学び直すことが可能です。
- ・行政も多文化共生は重要なテーマ。留学生の増加に呼応して地域の外国人雇用の積極的な企業とのマッチング機会を増やすなどさらなる支援を期待する。
- ・学生の就学目標を個人個人明確にし、学校側もそれを把握して、成果を確認するような個人面接的な制度が必要。

学校関係者評価

3.7

(5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	4
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4

5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
学校自己評価 平均		4
<u>成果と課題</u>		
<p>①講義室、実習室は管理担当者（教員）を割り当てている。ハードウェア・ソフトウェアについても定期的にバージョンアップを図っている。</p> <p>②実習室及び教室は原則自習室として開放している。図書は、各科で専門書を購入して教室や実習室で自由に閲覧できるよう整備している。</p> <p>③教育用機器備品は授業計画に合わせ、計画的に整備、更新を進めている。令和7年度は Windows 実習室のパソコンの更新を行った。</p> <p>④各科教育上必要な実習室や設備など、学習をするための環境は整っている。</p> <p>⑤防災マニュアルが整備されており、毎年全学生を対象に避難訓練を実施している。</p> <p>⑥学科担当、就職担当、分掌担当の役割分担のもと、効果的な成果があげられるよう実施している。</p>		
<u>今後の改善方策</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学生数や人材育成目標に見合った機材整備は計画的に取り組んでいく。 ・インターンシップやオープンカンパニーの参加を奨励し、学生が企業と接触する機会を増やす。 		
<u>学校関係者 評価コメント</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境はかなり整っている。 ・実習室パソコンの更新、図書の充実など、計画的な設備投資が行われている。 ・引き続き学生が使いやすいよう整備を実施して下さい。 ・パソコンの更新に併せ、生徒が使用できるソフトウェアについてどのようなものがあるか気になりました。 ・インターンシップ、オープンカンパニーの参加は、就職率に繋がるため機会を増やしてはどうか。 ・7年度は国際介護福祉科の学生さんが、防災対策を学ぶために当法人介護施設に見学に来られました。学生さんにとっては、将来就職していく介護施設等における防災対策を実際に見ることで学びが深まったようです。今後も、地域の事業所と学校が連携して学生さんへの教育が深まることを期待します。 ・教室内の機材置き場が雑然としており、整理整頓を徹底する必要がある。 		
学校関係者評価		3.9

(6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	3
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
学校自己評価 平均		3.8
<u>成果と課題</u>		
<p>①専門用語をできる限り少なくして志願者が分かりやすい一般的な言葉で表現し、虚偽のない正確な情報掲載を常に努めている。</p> <p>②入試方法が WEB 出願となり、志願者が混乱しないよう視覚でも理解できるような構成にしている。学費についても卒業までにかかる総額（全経費）を表記し、透明性の高い資料として提供している。</p>		

- ③オープンキャンパスの参加は学校選択において大きな要素であり毎月1～2回開催し、運営内容も試行錯誤しながら参加者に寄り添った内容となるよう検討の上実施しているが、入学者数は思うように伸びず定員数が未達となっている学科がある。入学選考は10月以降月1回実施し、3月は志願者ごとに随時実施している。
- ④日々の学習における作品の成果物、取得資格、就職実績などの成果は、ホームページやパンフレットでの発信をはじめ、ガイダンスや高校訪問、オープンキャンパスでは対面にて直接ステークホルダーへ伝えている。
- ⑤学納金については、教育の質の維持・向上、施設設備、消費税率など内外の要因を見極め、内部の効率的な運営に努めながら法人全体で適切に判断している。

今後の改善方策

- ・今後も継続して対象者に分かりやすく情報を整理し伝えるとともに、業界事情や学生支援活動を外部にもっとデジタルツール等でも積極的に発信し続け、紳士的な募集活動と健全な学校運営に努める。

学校関係者 評価コメント

- ・Web出願の導入や透明性の高い学費表記など、志願者への配慮が見受けられる。
- ・学生募集は学校を知る第一歩だと思う。オープンキャンパスの参加率はどの程度あるのか？
- ・少子化で高校も定員確保が課題となっている。学科の人気も年度によって波があると感じる。知らない層に知ってもらう取り組みは大切だと思った。
- ・R7とR8で、入学した生徒数の差が大きな学科があり、数字の差について分析されているが、因果関係がつかみづらい部分もあるように感じた。
- ・教育理念、募集、教育成果は同じ戦略の元、動くも機能的に動くかと思っております。
- ・入学者数の減少は数年後の卒業生の減少につながり、事業所における採用者数の減少に直結します。その点で、学校と事業所は運命共同体だと感じていますので、学生募集に事業所を最大限に活用いただけたらと思います。
- ・学校名を広く知ってもらうための活動が必要と思われる。一般の人に聞いても校名を知らない人が多い。その為には報道関係への露出度を多くするようにイベント等をアピールする。

学校関係者評価

4.0

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	3
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4

7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4
学校自己評価 平均		3.9

成果と課題

- ①法人内の人事評価制度に従い3回（目標設定、進捗、成果）に分けて実施している。
- ②教務・総務・広報・就職の各部門が連携し、業務上の様々な問題解決に取り組んでいる。法人内グループ校間の連携も保育分野での合同の近畿大学九州短期大学の巡回対応やゲーム分野の共同の業界講演、法人本部主体での課題解決プロジェクト等、複数の取り組みが企画、運営されている。その一方で、教材の共通化やシラバスの共有といったことはあまりできていない。
- ③④非常時における危機管理対策については、法人全体での対応が周知されており、学校毎の消防等安全に対する対応を継続的に行っている。避難訓練は毎年4月に実施している。
- ⑤⑥⑦学校としての教育目的、事業計画に沿った運営方針は毎年策定され、運営組織の体制も常に見直しを行っている。
- ⑧⑨就業規則を含む諸規程は法人によって整備されている。全ての規程集については電子化されており、教職員が各自のパソコンから自由に閲覧できる環境が整っている。
- ⑩業務を遂行するための各種情報システムは整備されているものの、カレッジによる特徴あるカルチャーは、全校的な運営体制の統一の壁となっている。ガバナンス統制、効率化の観点から、引き続き更なるDX化の推進が必要である。
- ⑪⑫⑬⑭⑮⑯教育活動に関する情報公開はホームページやパンフレット等を通して最新の情報を提供している。自己評価本評価についても公開している。
- ⑰⑱⑲⑳予算主義を基本とした運営に努めており、財務情報の公開、会計監査など経営上必要となる法令、設置基準に必要な法令は遵守している。
- ㉑個人情報の取り扱いについては教職員への教育・指導を行っており、現時点で問題となる事例は発生していない。
- ㉒ハラスメント防止のための委員会を設けている。また体制や相談窓口も周知している。

今後の改善方策

引き続き、健全で効率的な経営に努める。法令順守を徹底し、全てのステークホルダーからの信頼維持に努める。また、業務の標準化も継続的に取り組んでいく。

学校関係者 評価コメント

- ・教職員組織は、定着率の向上に繋がる。
- ・教員が作成した教材を教員間で自由に利用できる工夫があると思う。
- ・教材の共通化やシラバスの共有がされない原因と経緯が気になりました。
- ・教育と言う「個性」「専門性」が求められる業種での、「教材の共通化」等の標準化・生産性向上をどのように進めるかは大きな課題と感じます。これは介護現場でも同様の課題です。学校と事業所が連携して、この難問に挑んでいけたらと思っております。
- ・アナログとデジタルの両方を活用され、課題も多いが引き続き継続的に取り組んで欲しい。

- ・専門学校はもっと DX による業務削減が進んでいるイメージを持っていたが、高校の現場に近いことに驚いた。業務システムは整備されているものの、カレッジによる独自運用により統制、効率化が十分でないとの認識が示されている。導入ツールの特性を活かした業務の標準化が必要ではないか。
- ・教務関係の統合に情報システムの導入が必要だと思う。
- ・7-11 はなかなか改善されませんね。
- ・業務のシステム化が遅れていると評価されているが、システム化の為の取り組みがなされているか？

学校関係者評価

4.0

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	3
8-4	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3
8-5	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
学校自己評価 平均		3.8

成果と課題

- ①高等学校対抗のワープロ競技会、中学校/高等学校からの職業体験授業実施、子供向け仕事体験フェアの運営等、各種専門分野におけるの受け入れ、施設活用を多数行っている。
- ②③留学生に対しての在留更新や生活サポートを行う専任の担当者を配置し、各種法令を遵守した適切な受け入れ体制を整えている。
- ④浜松未来ウィーク（学習成果発表）や保育特別講座など、近隣住民や連携先施設等の方に参加いただく機会を設けている。一方で、行政等からの職業訓練の受託には現時点では至っていない。
- ⑤浜松市役所と連携した小学生向けの UD 教育アプリの開発や県警サイバー防犯ボランティアをはじめとする、学内外の社会貢献活動を奨励し、学生の取り組みを支援している。

今後の改善方策

- 留学生の受入れ増加に伴い、校内の体制を強化する。
地域貢献につながる取り組みをさらに強化し、開かれた学校として施設利用の促進を行っていく。

学校関係者 評価コメント

- ・留学生の受け入れは課題もあると思う。
- 今後も、留学生の受け入れは積極的に行われるのか？
学科を新たに設ける考えはあるのか？
留学生と日本人学生がペアグループになって、何か作り上げるという活動があれば面白いかもしれない。
学生が地域のイベントに参加し、地域との連携を強化する必要がある。留学生が地域と連携を深めるためにお祭り等のイベントに積極的に参加し、人事交流を図る。外国人に対する課題としてゴミの分別について取り上げる地域が多い。そのあたりの指導も必要。
外国人留学生の支援に適時適切に対応いただき感謝しております。
在留資格の更新など、決められたことは決められた通り対処できるよう支援をいただき、また学生さんの個別事情に対しては個別に丁寧に対応いただき、無事、卒業・介護福祉士合格につながっています。感謝しかありません。今後

も、学校と事業所が情報共有・連携をとり、より良い学びにつながることを期待します。
市と連携した UD 教育アプリの開発や、県警サイバー防犯ボランティアへの参加は、学生の技術力を地域課題解決に活かす素晴らしい取り組みである。

学校関係者評価

3.9